

びわ湖環境ビジネスメッセについて

1. びわ湖環境ビジネスメッセ 2017 の開催結果について

(1) 開催日時および場所

平成29年(2017年)10月18日(水)～10月20日(金)の 3 日間
10 時～17 時(最終日は 16 時まで)
於 長浜バイオ大学ドーム (滋賀県立長浜ドーム)

(2) 主な第 20 回記念企画

○ 主催者展示コーナー

「第 4 次産業革命と環境産業の未来」をテーマとして、ロボット、IoT 等の先進技術を紹介する展示を行った。(協力企業数 25 者、推定来場者数 6,000 名、商談件数 780 件)

○ 記念セミナー

産業界、金融、報道等の分野から著名人を招聘し、第 4 次産業革命、日本の宇宙産業、SDGs 等をテーマとした 5 本の記念セミナーを実施した。(記念セミナー参加者 494 名)

○ 記念表彰

メッセへの出展を契機として生まれた画期的なビジネスモデルを受賞対象とする「びわ湖発・環境ビジネスデザイン大賞」および 20 回連続出展者への表彰を実施した。
(デザイン大賞1 者、同優秀賞 2 者、連続出展 13 者)

○ 海外関連

海外水ビジネス企業との商談会をはじめ、各種の海外関連企画を実施した。
(参加した海外企業： 水ビジネス商談会 10 者、プレゼンテーション/ドイツ企業 13 者・中国企業 5 者)

(3) 開催結果

出展者数： 292 の企業・団体が出展し、前年とほぼ同規模となった。

来場者数： 3日間でのべ 34,270 人と、20 回記念企画の開催や広報強化により、前年を 5,080 人上回った。

商談件数： 来場者増加等により、前年を 1,770 件上回った。

開催年		出展規模		来場者数	商談件数			
		出展者数	小間数			名刺交換など 一般的な商談	今後のセールス に繋がる見込 ある商談	契約の成立また は確実と思える 商談
第19回	2016	292	441	29,190	27,511	24,084	2,936	491
第20回	2017	292	435	34,270	29,281	25,183	3,099	999
増減		0	△ 6	5,080	1,770	1,099	163	508

(4) 出展者・来場者のアンケート結果

出展者の 74%から「出展目的に対して満足またはほぼ満足」との回答があり、出展者からの評価は前年より改善した。また、来場者の 91%から「一定の成果あった」との回答があった。

対象	アンケート項目	回答	H29	H28(参考)
出展者	出展目的に対する満足度	満足＋ほぼ満足	74%	67%
	次年度出展意向	出展したい＋出展の方向で検討	86%	82%
来場者	来場の成果	大きな成果＋一応の成果	91%	90%

2. びわ湖環境ビジネスメッセ 2018 について

第 21 回目の開催となる「びわ湖環境ビジネスメッセ 2018」においても、引き続き「環境と経済の両立」を基本理念に、以下に示す新たな特色や改善点を取り入れながら、「BtoB」に特化した環境産業の総合見本市として開催する。

(1) 開催日時および場所

平成 30 年(2018 年)10 月 17 日(水)～10 月 19 日(金)の3日間
於 長浜バイオ大学ドーム(滋賀県立長浜ドーム)

(2) 特色

ア SDGs への取組のアピール

本県が全国の都道府県に先駆けて取組を宣言した「持続可能な開発目標(SDGs)」について、SDGs への取組紹介コーナーの設置、SDGs に関するセミナーの開催、SDGs ロゴによる会場の装飾等により、本県の SDGs への取組をアピールする。

イ 特設ゾーン「新技術・新素材のエコ革命」の設置

技術革新や市場拡大が期待される「エコ素材(セルロースナノファイバー等)」や「エコデバイス(省エネ半導体部品等)」の分野を、「新技術・新素材のエコ革命」と題し、新たな特設ゾーンとして設置する。

(3) 改善点

ア 商談機会の充実

JETRO との連携による海外水ビジネス関連企業との商談会の開催、実演等を可能とするためのプレゼンテーション会場の拡大、商談ブースの拡充等により、商談機会の充実を図る。

イ 学生向け就職支援関連企画

大学生等を対象に出展企業を紹介し、出展企業と学生とを結び付けるための企画について検討する。

ウ 来場者用駐車場の拡充

引き続き米原駅東口駐車場を臨時駐車場として利用するとともに、ドーム近隣に来場者用駐車場を確保し、来場者用駐車場の利用状況のホームページ上での逐次案内に取り組む。